

## 迷ったときは前へ進め

中井 直正（理工学群物理学類教授）



### 右へ行くか左へ行くか

私のところで卒業研究をしたある学生が相談に来た。本学大学院と他大学の大学院の2つに合格したけれども、どちらに行ったらよいか迷いに迷って決められずにいたのである。今の研究室は居心地がよく、研究も興味があってそのまま大学院に進学したいけれども、もうひとつの大学院の方も話を聞くと非常におもしろそうなのでそちらの研究もやってみたい。困った。どちらに行けば良いのだろうか。決断がつかないのである。

私は、迷ってどうしても判断できないときには一般的には自分にとって積極的な道を選択する方がうまくいく可能性が高い、と答えた。すると話をしている間にその女子学生はあっという間に決断して他大学の大学院に進学した。そして私の部屋を出るとき、迷ったときは前へ進め、ですね、と自分に言い聞かせるようにしてつぶやいた。後日その学生は、先生に背中を押してもらった、と言って、今は元気に研究をしているようである。

あるとき、よく知っている他機関の若い研究者から相談のメールがきた。世界が協力して建設中の超大型望遠鏡プロジェクトの科学面での責任者が国際公募されているが、それに応募してくれないかと言われて迷っていたのである。大きな仕事でやりがいもあり興味もそそられるが、とても重責であって自分に務まるかどうか不安でもあり、また今やっている研究にも未練がある。応募すべきか否か、大いに迷ったのである。

私は、一般論としては、どうしても迷ったときには積極策を選択する方が人生は豊かになる可能性が高い、と答えた。後日その研究者は清水の舞台から飛び降りてそのポストに応募した。幸か不幸か採用とならなかったようだが、もし採用されていたら、その人の人生は今とはかなり異なったものになっていただろう。

### 人生の岐路

どんな人にも長い人生の間には選択をせまられ、判断に迷うことがある。大学院進学、就職、転職、独立、結婚、事業の行き詰まり、外から降ってきた話、…。そのとき、明確に判断できれば、その道がたとえ現状維持や消極策であろうともその道を行けばよい。しかし、決断できずに迷いに迷うこともあるだろう。何度も何度も考えた末、一旦は決めたが翌日起きたらまた不安になってどちらがよいかわからなくなってしまった。そして、どうしても決断できないというときもあるだろう。

### 積極策へ針路を取れ

そういう迷ったときのひとつの判断方法は積極策を選ぶことである。前に進むのである。そうすれば人生は豊かになる可能性が高い。多くの場合、その道はより困難で険しいだろう。しかし、その道で努力を重ねればうまく行く可能性も高い。

失敗することもある。この道に来るのでもなかった。あのか、もうひとつの道を行くべきだったと後悔することもあるだろう。しかし、消極策を取って後悔する場合に比べれば、後悔の程度は少ない。積極策を取り、その道で精一杯努力して、そして敗れたのであれば、ある程度あきらめもつく。元々、右と左の可能性は半々であり決断がつかなかったのである。サイコロを振るよりは自分にとって積極的な道という判断で決める方が自分の意思となる。

どうしても迷ったときは、前へ進め。

諸君達の人生が豊かになることを願って。